

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	このおと			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～	2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数)	32
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～	2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽療法特化型の施設で個別療育中心あること	音楽を通して個々に応じた療育ができるように工夫している。 楽器活動や身体活動、対話や音でのやり取りなどを通して、5領域がバランスよく伸ばせるように活動内容を組み立てている。	個別療育を中心としているが、少人数のグループ療育を充実させて、同年代の子ども同士の社会性やコミュニケーション力を育む機会を設けていきたい。
2	職員の質の高さ	研修の機会や資格取得のための支援を充実させているため、質の高い職員を配置できている。	さらに研修内容の幅を広げること、また、専門職員を増やしていくことを検討している。
3	発表会やコンサートの開催	利用児が自らの演奏を披露する発表会や自由に生演奏を楽しめるコンサートを実施することで、障害のある子どもたちが日常生活の中で体験しがいな機会を提供している。 また、それらのイベントには保護者も一緒に参加していただくことで、子どもの成長を感じたり、家族で音楽を楽しんだりできるように工夫している。	今後もより多くの方に参加していただけるよう日程や開催回数を工夫していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が少ない	個別療育で短時間の支援のため、地域に出る機会(買い物や公園など)を作ることができない。	地域の方に事業所のことを知ってもらえるような情報発信や地域の方が参加できるイベントなどを企画できないか検討する。
2	療育時間中に避難訓練を実施できない	個別療育で短時間の支援のため、その時間を避難訓練に充てるのが難しい。	保護者とともに防災を学ぶ機会を作ることや職員で行った避難訓練の実施内容の共有することで、災害時の対応を理解していただけるよう工夫していく。
3	保護者同士の交流機会が少ない	利用枠の前後を開けているため、保護者同士が普段会うことは少なく、イベントの際も一部の保護者同士が対話する程度になってしまったため、もっと時間を取って交流したいとの声がある。	今年度内に1度「保護者と学ぶ防災講座及び保護者交流会」を企画している。開催後の保護者からの意見や感想を聞きながら、次年度以降の内容や頻度を検討し、より多くの機会を設けられるように検討していきたい。